

平成28年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名 大学院生物産業学研究科

学部長・委員長等氏名 塩本 明弘

担当所管 学生教務課

テーマ 大学院生定員の充足

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

定員確保について、博士前期課程は充足しているが、平成28年度博士後期課程においてはまだ充足していない。博士後期課程の定員充足率をまず昨年度実績以上に上げていきたい。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

博士前期課程募集の段階で奨学金返済猶予などの説明を活発に行い、同時に教員にもその意識もって指導することを実施してもらう。若手教員および、卒業生の博士号取得者を招いて、博士号取得後のキャリアの展開について紹介してもらう試みを計画している。大学院研究発表会は現時点でも学部生へのアピールは有効であるので、引き続き活性化していく。秋入学、外国からの入学希望者に対して、受け入れ態勢と広報を整備・強化する。このためのHPや募集案内の整備などを行っていく。また社会人入学も実績を作っていく。

3. 達成度を判断するための指標

博士前期課程、博士後期課程とも定員充足率により評価する。

4. 成果・評価

■成果

平成29年度入学者は、前期課程は生物生産学専攻3名（入学定員7名）、アクアバイオ学専攻7名（入学定員5名）、食品香粧学専攻7名（入学定員5名）、産業経営学専攻8名（入学定員3名）、合計25名（入学定員20名）、後期課程は2名（入学定員8名）であった。前期課程は定員を十分に満たすとともに、うち社会人入試による入学者1名であった。後期課程は入学者が少なかったものの、うち1名は社会人入試であり、両課程とも多様な入学者受け入れに対して一定の成果があった。

■評価（5～1で記載してください）

前期課程は専攻により定員を満たしていないが、全体としては入学定員を充足することができた。一方、後期課程は充足（目標値）に至っていないことから、評価は3とする。

5. 課題及び改善事項

前期課程については、学部の早い時期からの意識づけということで、ポスター発表会への学部生の参加や入試説明会・相談会の実施が効果をあげてきたと思われる。一方、後期課程については、奨学金などの支援は一定の効果がみられるものの、修了後のポストが限られていることから、充足への道は容易ではないと思われる。さらなる博士へのキャリア支援が必要であろう。

6. 平成29年度への継続の有無

有

※添付資料：

- (1) 大学院1期入試説明会ポスター
- (2) 大学院研究発表会・進学相談会ポスター

平成28年度活動報告書(2/3)

学部・委員会名 大学院生物産業学研究科

学部長・委員長等氏名 塩本 明弘

担当所管 学生教務課

テーマ 国際化、国際感覚の向上

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
英語での発表、討論の機会を増やし、海外からの大学院への入学もアピールしていく。海外研究者を積極的に招へいし、講演会を開催する。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
秋入学を含めて、募集要項自体を国際化対応のものに変えていく。英文ホームページの研究テーマ紹介、院生活動紹介を充実させていく。
3. 達成度を判断するための指標
海外対応募集要項の作成と公示。英文HPデザイン案を作成する。
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>ポスター発表会でのポスターに英文要旨を記載させることを継続的に実施しており、修士論文英文要旨に質の向上みられている。また、英文の大学院募集要項をリニューアルした。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>ほぼ方針に基づいた活動ができたが、英文HPには手をつけていないので、評価は4とする。</p>
5. 課題及び改善事項
大学院生全体として英語力の向上がみられているが、十分ではないところもある。また、留学生の確保にはさらなる努力が必要と思われる。オホーツクキャンパスにおける留学生の受け入れには、教育研究のほか生活全般に対する支援も重要であり、施設（寮）や予算措置等が今後の課題となる。
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料：

なし

平成28年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 大学院生物産業学研究科

学部長・委員長等氏名 塩本 明弘

担当所管 学生教務課

テーマ デイプロマ・ポリシーの具現化

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

高度な技術と学問レベルを涵養し、各専攻の専門分野を柱としながら、問題設定と解決能力を備え、生物産業全体を見渡せる実行力とリーダーシップを持った人材の育成を目標とする。この目標にそったカリキュラムの改善点を絞り込んで、改善策を大学院FD委員会で練っていく。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

授業評価、研究指導評価、教員による授業実施記録をFD委員会で精査して、これらとデイプロマ・ポリシー具現化における乖離点をあぶり出す。その上でカリキュラムの改善策を考える。

3. 達成度を判断するための指標

改善点の明確化と、それに対する改善案の作成。

4. 成果・評価

■成果

授業評価、授業記録、研究指導評価を実施・回収し、これらを委員会でフィードバックし、問題点などを昨年度と同様に論じた。一方、カリキュラムについては、議論が進まなかった。

■評価（5～1で記載してください）

目標に十分には達しなかったが、方針に基づいた活動はできたので、評価は3とする。

5. 課題及び改善事項

カリキュラム改善などの議論が進まなかったことから、平成29年度には大学院FD委員会を中心に学部改組、教職再課程認定の状況を踏まえて、具体的なカリキュラム（カリキュラムポリシーを含む）改善に向けた議論を進めていく。

6. 平成29年度への継続の有無

有

※添付資料：

なし